

「戦争あるいは抑圧」と映画研究会

研究会メンバー

後山剛毅(先端研 5回生)
森祐香里(文研 D3)
岩本知恵(文研 D4)
栗山雄佑(文研 D2)
猪熊慶祐(文研 D3)
枝木妙子(先端研 6回生)
小田英里(先端研 5回生)
寺田拓矢(先端研 2回生)
塩野麻子(先端研 2回生)
酒向溪一郎(先端研 2回生)

研究会目的

戦争や社会的な抑圧を描いた映画作品の鑑賞と議論を通して、映画というメディアがある事件(出来事)をどのように描くことが可能で、何を描くことができないのか、ということ进行考察すること

鑑賞作品 一覧

『ソフィーの選択』『暗い日曜日』『杉原千畝』『エレファント』『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』『シルミド』『光州5.18』『1987、ある闘いの真実』『タクシー運転手、約束は海を越えて』『トガニ』『金子文子と朴烈』『Bell』『サウルの息子』『夜と霧』『24時間の情事』『夕凧の街桜の国』『ひろしま』『否定と肯定』『サルバドールの朝』『お嬢さん』『グッバイ・レーニン』『ムーンチャイルド』『僕たちは希望という名の列車に乗った』『帰ってきたヒトラー』『わたしを離さないで』『博士の異常な愛情』『父と暮らせば』『リベリアの白い血』『フルートベール駅で』

活動概要

- ・研究会は、基本的に、毎週月曜日18:30~22:00に開催する。(ただし、前期のみ。後期は、再設定)
- ・開催場所は、究論館プレゼンテーションルームA・Bを使用する。
- ・参加者は、事前に研究会グループLINEに当日の参加の可否を通知する。
- ・代表者は、毎回A4一枚程度のハンドアウト作成し、研究会で配布する。
- ・それぞれの映画によるが、鑑賞後30~60分の議論時間を設ける。

まとめ

1年間を通して、30作品を鑑賞することができた。研究会メンバーも積極的に参加し、また、当初のメンバーが他の院生を誘うことで、想定以上の人数が集まった。到達点として、戦争体験や社会的な抑圧を描いた映画に多く触れることで、それぞれの作品が持つ形式についての議論が次第に深まっていったと思う。